

令和7年度 第1回鹿島市水道事業審議会 議事録【概要版】

1. 日時：令和7年9月3日（水）13時半～14時45分

2. 開催場所：新世紀センター 2階 会議室

3. 出席者

（1）委員：池田委員、片淵委員、亀井委員、唐島委員、喜多委員、北村委員、
合六委員、小柳委員、田口委員、武富委員、淵上委員、迎委員、
森委員、吉田委員

（2）事務局：松尾市長、中村水道課長、田口課長補佐、栴島課長補佐、
松尾管理係長、富岡工務係長

4. 内容

（1）開会

（2）委嘱状交付

（3）市長あいさつ

（4）委員の紹介

（5）会長及び副会長選出

・会長に片淵委員、副会長に池田委員を選出

（6）会長及び副会長あいさつ

（7）議事

事務局：「令和6年度鹿島市水道事業の決算の概要について」説明

（8）質疑応答

A 委員：12 ページで経営指数の②の料金回収率が 15.7%ほど上昇している中、料金回収について前年とその取り組みとかが変わったということがありますか。回収率が上がったというのはいい方向だと思うので、料金請求するのに振り込みに変更したとか、元々振り込みが多かったのか少なかったのか、そういう対策をされてこういうふうに上がったのかなと推測しますが、こういった対応をされたのでしょうか。

事務局：料金回収率というのは、13 ページにありますけれども、これは供給単価÷給水原価ということになっています。供給単価は 1 立方メートル当たりの売値と、給水原価は 1 立方メートルあたりの水を作るのにかった費用ということになります。供給単価は、料金収入が多いと上がるようになっています。供給単価は、今回料金改定をさせてい

ただいた関係で単価が上がってしまっていて、給水原価というのは水を作るための費用というところで、経常経費が下がっていますので、回収率が増えたような形になっています。

B 委員：2 ページの衛星を活用した漏水調査事業が令和 7 年度事業で上がっていますけれども、これは新規事業ですか、それとも今までもあっている事業でしょうか？

事務局：今までは現地に行って音を聞いて、漏水があっているかどうかを調査してきましたけれども、今年度は衛星を活用した新しい技術になります。漏水調査の事業自体はずっとやってきていますけれども、技術が新しくなったということになります。

B 委員：衛星を活用した漏水調査で、見つけやすくなるという希望を持っていいということですね。5 年度 6 年度は有収率があまり変わっていなかったものですから、7 年度からの新しい事業かなと思って質問させていただきました。

事務局：補足です。本管から家の方に引き込む給水管の漏水もかなりあります。本管は市で交換しますが、引き込み管は基本的に個人さんがお金を出して工事してもらいますが、なかなか更新されていません。本管が 225 km ぐらい市内にありますが、料金改定を元手に去年から 3 km ぐらい更新しています。全部更新するのに 70～80 年ぐらいかかります。最近では、メーターを通った先の漏水というものもだいぶ多くなっています。そういったところの漏水も、漏れた分の半分程度は水道料金を免除しますという制度をとっています。水が漏れた分というのは収入になりませんので、そういったのも有収率に反映しています。有収率の向上というのが、鹿島の課題の一つかと思っています。

C 委員：新規事業ということで事業費をあげてあります。過去は複数年のサイクルで全域にかけて実施されてきたということで、この新規事業は補助が半分出るということですが、費用の割合といいますか、どうなっているのかなというのが一つ。このマイクロ波が地中 3m まで侵入ということで、水道管は大体何メートルのところに埋設されているか、よろしくお願いします。

事務局：まず水道管の深さですけれども、大体 60cm から 1.2m ぐらいのところに入っています。3m より深いところには、水道管は入っていないという現状です。

それから事業費ですけれども、去年までは給水区域を3分割してきましたけれども、3年で1,900万円、年600万円ちょっと漏水調査でかけてきています。今回は、どのくらいそういう疑い箇所が出るか、結果次第でその後の現地調査の金額が変わってきますけれども、約1年分、600万円ぐらい費用の削減になるのではということで期待しているところです。

D 委員：7ページの収益的支出の特徴というところです。支出の内訳で、令和6年度と5年度の比較のところで、一番減少している配水および給水費というのが半分ぐらい減っています。もう一つダム負担金の分で、中木庭ダムとおっしゃいましたが、これが1000万ぐらい減少しています。耐用年数、除却費は増えています。人件費が860万ぐらい減少しています。今いろいろ人件費の問題があって、なるべく人件費を上げてくださいということですが、この減少した分を教えてくださいと思います。

事務局：委託料の配水および給水費が減っている部分は、昨年審議会で水道施設の更新計画というのを説明させていただいています。その計画を立てる委託料がそれぐらいかかっていますが、6年度にはその分委託料が落ちてきたということです、年度ごとに起こす事業で高額になったり、いらなくなったりするところ、そういったところの増減になります。

それからダムの負担金ですが、水道の水源といたしまして、今12ヶ所の井戸の地下水を利用してあります。元々地下水の減少等に合わせて、中木庭ダムを作る際に水源の担保ということで、ダムの貯水権を持っています。元々県の所有ですけど県が維持管理する中で、うちが8.7%権利を持っていますので、負担金という形で市の方に請求がきます。その負担の内容が年度ごとにいろいろ変わってきます。

人件費に関しては、人事異動や、勤務年数による給料の差、人数の変更がありますので、そういったところで人件費の増減が出ています。

事務局：料金改定後の影響について補足です。今220kmのうち8%ぐらいが40年を超えた管になっていますが、これが令和16、7年ぐらいから一気に増えて半分以上が40年を超えた管ということで急増していきます。早めに更新していかないとニュースでやっているような状況になりかねない、その工事をするためのお金を確保するというのが、料金改定をお願いした理由の一つです。

以前までは、管路の更新が1 kmぐらいでした。今回の資料にもありますが、1年で約3 kmは更新できています。これでいけば75年ぐらいで全部替わっていくような形になります。この更新というのは、1回で終わるのではなくて、いずれまた古くなった管は更新しなければなりません。管路の耐用年数は法的に40年ですが、新しい管路は70年とか80年もちよようになってきますので、3 kmずつしていけば、何とか平準的に高額にはならないような形になるのかなとも思っています。今のペースで更新ができるように持っていけたらと思っているところです。

E 委員：決算書を説明いただいて、料金改定後どうなっているかなというところを気にして見ていました。鹿島市は上げられたことによって、今回決算書の数字が非常に良くなっています。毎年こういう形で皆さんにフィードバックしていただいて、これがある程度このまま続くのであれば、5年後の引き上げも、上げるか上げないか、上げる率といったところも微調整で進んでいくようなことも当然考えられると思います。

鹿島市は、今回料金を上げられて、数字は今良くなっています。今回の課題である10年後の老朽化に向けてどうやって資金繰りをやっていくかというのを非常に考えられていると思います。特に料金改定だけだったら、大体その部分しか純利益は増えないですが、経費が結構減らされていました。むやみやたらに減らされていなくて、新事業の漏水調査もあります。今まで漏水調査は、人が1件1件調査しないといけないので、非効率な調査しかできませんでした。こういった取り組みが全国的にも進んでいますので、経費削減に繋がる取り組みを導入されたかなと思います。

(9) その他

事務局： 次回の開催概要について説明